

大学長に長谷川氏再任

新潟大学

2次投票
2位 選考会議で「逆転」



長谷川彰氏

新潟大学の学長選考会
議が六日、新潟市で開か
れ、現職の長谷川彰氏

（六）の再任が決まった。任期は来年二月一日から二年間。従来の教員による投票形式ではなく、同会議が二度の意向投票を参考に決定する方式での選出。二次投票で最多得票の山本正治医学部長を

「逆転」しての再任で、同大職員組合からは反発の声も上がっている。同日、会見した長谷川氏は法人化で進めた大学改革の実績を強調。「総合大学として副専攻制度など特色ある試みや、教

育改革を進める」と抱負を語った。長谷川氏は新大理学部卒、東京大大学院数物系研究科博士課程修了。新大理学部長を経て、二〇〇二年から現職。新発田市出身。

選考会議は学内の理事ら八人と経営協議会の学外委員五人の十三人で構成されており、長谷川氏の会見に同席した議長の

小林俊一・東京農工大監事は「意向投票を考慮しながら、最終的には（候補などを除く）十人で票決した」と述べた。票決の数字や議論の内容は「混乱を避けるため公表しない」と明らかにしなかった。

一方、二次投票で二番目の得票だった長谷川氏が選ばれたことについて同大職員組合の五十嵐

新大学長・長谷川氏続投へ



長谷川彰学長

新潟大学の新しい学長候補を決める選考会議が六日、新潟市内のホテルであり、審議の結果、現学長の長谷川彰氏（68）が候補者に選ばれた。文部

科学大臣の任命を受け、正式決定する。今回の選考会議は長谷川氏の任期満了によるもので、新しい任期は08年1月末までの2年間。

長谷川氏は65年3月、東京大学大学院博士課程を修了。85年10月から新潟大学教授となり、97年から同大理学部長を4年間務め、02年2月、学長に就任した。

会議後に開かれた記者会見で長谷川氏は、国立大学の法人化に伴って進めてきた教育改革について「新潟大学に最もふさわ

しい改革である」などと述べ、改革路線を継続していく考えを示した。学長職をめくり、先月10月に行われた第1次意向投票で、役員、教員、事務職員など953人が投票し、長谷川氏が516票、医学部系長の山本正治氏（62）が304票、人文社会・教育科学系長の鈴木佳秀氏（61）が108票だった。

ところが、役員、教員843人が投票した同30日の第2次意向投票では、山本氏443票、長谷川氏360票と支持が逆転した。

選考会議は、同大の理事を含む幹部と、学長が任命した外部の委員計10人がメンバーで、候補者

は参加しない。長谷川氏は選出の経緯について、東京農工大監事の小林俊一議長は「あらゆる形勢を考慮し、慎重に審議のうえ、最終的に評決した」と述べた。評決結果について、「公表することによる混乱が大きい」として明らかにしなかった。

文化研究科長の鈴木佳秀氏が二十二票だった。